



# 2024年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



## Vol. 1 温湯消毒 & 脱水編

育苗センター前の桜がきれいに咲きほこる頃、今年も育苗作業の季節となりました。まずは種子の「温湯消毒」と「脱水」から作業は始まります。

【撮影日：2024年4月10日】



機械が下がりお湯に浸けられる

### 温湯消毒



60℃のお湯に10分

草刈りや育苗センターの点検など育苗の準備が終わり、種子の準備に入ります。播種をするためには**芽出し**が必須です。最初に種子を60℃のお湯に10分間、水に5分間浸けて**温湯消毒**をします。

### おんとうしょうどく 温湯消毒とは

農薬を使用せずにお湯で殺菌して種子を消毒する方法

#### 温湯消毒のメリット

- 種子消毒の農薬を使わないので、米の減農薬栽培ができる！
- 農薬の廃液も出ないので、廃液の処理が不要！
- 農薬を使うよりも経済的！

自然にも生産者さんにも優しい技術でいいことばかりなんです！

★農薬を使わなくても農薬と同等の効果が得られるので、滋賀県の「環境こだわり米」の普及とともに、水稻種子の温湯消毒の取組みが広がっています。

温湯消毒後は、種子を水に浸けます。

この作業は「**浸種**」といい、10℃～13℃の水槽に1週間から10日間浸けておきます。種子は見た目で違いが分からないため、品種を間違えてしまわないよう、袋に「**日本晴**」の品種ラベルを付けてしっかり管理します！

浸種が終わると次は**芽出し**「**催芽**」をします。

**催芽**は芽を出しすぎると播種機に詰まったり、芽が切れたりする原因となるので、担当者が種子の状態を確認しながらしっかり管理しています。



### 催芽した種子

次に、**催芽**した種子の入った袋を遠心脱水機で「**脱水**」します。水気をしっかり切らないと、播種の際に播きムラや機械故障の原因となります！

種子も機械も丁寧に扱いながら作業を進めています。

### 浸種



遠心脱水機に入れて脱水！



回転する

### 脱水

